

令和7年度

奈良県公立高等学校入学者一般選抜学力検査問題

国語

注 意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙には、受検番号を忘れないように書きなさい。
- 3 解答用紙の※印のところには、何も書いてはいけません。
- 4 答えは必ず解答用紙に書きなさい。

二 次の文章を読み、各問いに答えよ。

何かと話題のAI（正確に言うと生成AI）だが、AIと連歌を巻いてみませんかという魅力的なお誘いをいただき、先日東京でその会に参加してきた。

AIの驚異的な対応力、あるいは会話力について改めて解説する必要はないだろうが、彼らがどのように文を組み立てていくかは、単純化し言えば、ある言葉が来た時に、次にどんな言葉が続く確率をもっとも高いかを、これまでに学習したすべてのテキストから計算して割り出し、一語一語を繋ぎ、生成していくものである。ある意味、言葉と言葉のつながりがもっとも密な代表としての文が出来上がることになる。AIが作った文章はどこか既視感があるとか、優等生的などと評される所以である。

AIを使って短歌を作ることはいくつか、それは許されるのかといった問題は、この一年ほどのあいだに急上昇してきた、まだ解決のつかない問題である。しかし、一つはつきりしているのは、生成AIが文を作る時と、私たちが短歌なら短歌という詩を作る時とは、言葉の選択が真逆と言ってもいいような関係にあるということ。

たとえば「夕日」という言葉の後ろには、一般的には「美しい」などの言葉が来る確率は高いだろうが、短歌や詩ではそのような言葉の続き具合をもっとも嫌がるものである。出来合いの言葉、みんなが感じるような当たり前の展開はまずは避けたいところ。

そんなことも意識に置き、言葉の繋ぎ具合を「キソウ」連歌という場でAIと対決してみるのをおもしろいだろうと引き受けたのだった。当日はなんと私のこれまでの六千首あまりの歌をすべて学習した「永田くんAI」まで登場して驚いたが、長句（五七五）短句（七七）のリアルな応酬は、期待どおりおもしろいものとなった。

I ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

その意味で、創作という行為、そして読みや鑑賞という行為は、人にしかできないものと言ってよい。会場では、そんな指摘をしておいた。さて、その連歌であるが、当たり前の言葉の付け方にならないよう確率の低い語の選択を許すなど、いくつかのチャレンジをその場で「模索」しながら、会場と一体となって進行した。AIの実力は、音数合わせが苦手ということも含めて、まだまだ人間には「及ばない」というのが正直な感想であったが、圧倒的なAIの進化の速度を考えると、一年後に対戦してみれば、結構、互角の応酬が期待できるのかもしれない。

（注）AI＝人工知能（永田和宏「AIと連歌を巻く」による）

連歌を巻いて＝和歌の長句（五七五）と短句（七七）を二人で応答して詠んで

(一) A、Bの片仮名を漢字で書き、C、Dの漢字の読みを平仮名で書け。

(二) 線部の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 結局のところ イ 時と場合によっては ウ 何はなくとも エ さらに付け加えると

(三) 線①と評される理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 蓄積されたデータをもとに一語一語の接続の仕方を分析すること

イ 蓄積されたデータから一語一語の使用状況を逐一明らかにすること

ウ ある言葉と関係の深い言葉を蓄積されたデータから探し出すことで、言葉同士のつながりが一般的なものになりやすいから。

エ ある言葉に続く言葉をテキスト上の言葉をもとに新しく作り出すことで、言葉同士のつながりが一過性のものになりやすいから。

おもしろいだけでなく、AIと連歌を巻く過程で、逆に詩を作るとはどういうことか、言葉そのものの考え方、詩歌における言葉の選択の本質的な問題が炙り出されるように見えてきたのは、期待どおりの展開であった。

そんななかで、当日会場でのトークで、私が指摘しておいた一つのことだけを書いておこうと思う。

言葉はどれだけたくさんあるかと所詮有限である。この意味で、私は「言葉は究極のデジタルである。」と言ってきた。言葉を「ナラべれば」、どんな情景でも感情でも、まあ大体は表現できるだろうと思われるかもしれないが、所詮有限の道具を使って、無限の多様性に満ちたアナログの世界を、たとえば目の前の景色や自分の思いを、完全に表現し尽せるものではない。私たちがもっている言葉は、現実の世界に対応するには隙間だらけなのである。

だから、何かを表現できたと思った時には、その背後に、圧倒的な量の、表現できなかったものがあることを思い浮かべておく必要がある。私たちは言葉で表現されたものを読むとき、どうしても「表現されたもの」にばかり意識や興味が行きがちであるが、それ以上に、表現できなかったものの、敢えて表現されなかったものにこそ思いを致す、実はそこそが「読む」という行為なのである。先ほど言った隙間を読むことが大切なのである。

このような言葉というデジタル情報から、表現された内容を、さらに表現されていないものまで含めたアナログ情報を読み取ることは、機械にはできない。機械は、デジタル情報をデジタル情報に変換することは得意だが、アナログ情報をデジタル化したり、デジタル情報からアナログ情報を再構成することは決してできないのだ。デジタル→アナログ変換は、今のところ人にしかできない。

(四) 線②からわかる筆者の考えとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 短歌や詩では、各時代の流行を後世に残そうとして言葉を選択するため、より強い印象を与える表現が好まれる。

イ 短歌や詩では、社会的な関心が高い話題を明確に伝えようとして言葉を選択するため、他者の共感を呼びやすい。

ウ 短歌や詩では、個人的な体験をより普遍化しようとして言葉を選択するため、作者の思いがわかりやすく伝わる。

エ 短歌や詩では、主観的な思いを工夫を凝らして表現しようとして言葉を選択するため、作者の独創性が生まれる。

(五) 線③とはどのようなことか。文章中の言葉を用いて簡潔に書け。

(六) 線④とあるが、「アナログ情報をデジタル化する」ことを言い換えている言葉を、「I」の部分から二字で抜き出して書け。

(七) この文章の述べ方の特色として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 言葉に対する筆者の思いを、様々な場面で活用できるAIの汎用性の高さを例示しつつ、具体的に述べている。

イ 言葉に対する筆者の思いを、AIと連歌を巻く過程で再認識したことを指摘する中で、筋道立てて述べている。

ウ 短歌に対する筆者の思いを、AIが短歌を作ることの是非についての持論を展開する中で、詳細に述べている。

エ 短歌に対する筆者の思いを、文の組み立て方に対するAIの驚異的な対応力を賞賛しつつ、率直に述べている。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

社会学が出发点にする「規範」は、個人が個人の中でそれぞれ独立して作る「規範」ではありません。それは共同の「規範」です。ですから社会学は「人びとが大事だと考えること」について考えるのです。もちろん人びとが大事だと考えることは一つでないし、あることについてその大事さ加減は人によって違います。しかし、単に個人にとつての話ではなく、みんなにとって大事だろうと考える人がいたら、それは社会学のいとなみの出発点になります。

もし、「人びとが大事だと考えること」について、社会の共通認識が確固たるものとしてあり、それを解決する手段もすでに明解であるなら、社会学の出番はないかもしれません。しかし、ほとんどの「みんなにとって大事だろう」ことは、それがどう大事なのか、どう問題なのか、何が問題なのか、どうすればよいのか、について、まだまだわからなかったり、みんなが納得できていなかったり、あるいは解決していないものでしょう。社会学はそこを考えようとしています。社会学はそうした問題について、対話的にデータを集めながら、対話的に考えようとしています。

社会学は、共同の規範を作り上げるための共同のいとなみにほかなりません。もちろんそれは、「共同の規範」なんてありうるのか、あるいは、「共同」とは誰と誰の共同なのか、という問かれた問いをつねに含みつつのいとなみです。

社会学は、複雑な社会の中で、社会に伴走しながら知識生産していく学問です。しかし、伴走は簡単ではありません。何より不確実性に満ちているので、確実な正解を提案できるわけではありません。社会と一緒に考えて、正解らしきものを提示する。でもそれは本当に正解かどうかわからないので、それを実際に進めてみて、検証して、また考える。社会に伴走するこのような知のあり方を考えるとき、自然保護分野で

の「順応的管理」というものがヒントになると思います。

たとえば、近年の北海道では、アザラシが増えて漁業被害の問題が生じています。アザラシが漁網をやぶってしまったたり、網の中の魚を食べてしまったりするのです。漁業被害を減らすためには、アザラシの数を減らす必要があります。しかし、一方でアザラシを絶滅させることも避けなければなりません。そこで、まずアザラシが現実にとのくらしいのかを実測から推計します。しかし、その推計は不確実性を強くもちます。また対策を立てたとして、それがどういふ効果があるかはやってみないとわかりませんし、やってみても正確な効果についてはわかりません。③そうした不確実性を前提にしながら、得られる科学的なデータをもとに、アザラシをどのくらい駆除すればよいのか計画を立て、実行します。その結果がどうなったのかをモニタリングし、その結果からまた計画を立て直します。そういうことの繰り返し順応的管理です。

今日世界中の自然保護においてこの順応的管理の考え方の基礎を築いたのは、C・S・ホリングという生物学者です。ホリングは、順応的管理の考え方をこう強調します。いくらがんばって大量のデータを集めたとしても、生態系や社会について私たちが知識として獲得できることは、獲得できない部分に比べればはるかに小さい。だから、不確実なもの、知らないことをなくそうとしてもだめだ。大事なことは、不確実なもの、知らないものにどう対処するかなのだ、とホリングは説きます。完全に「わかる」ことを目標とするのではなくて、ある程度わかったところで周到に実行してみ、その結果を見ながらまた分析して、軌道修正していく、④そういう順応的管理のしくみを作ることが必要だ、というのです。

とすれば、社会学が果たすべき役割は、その問題についての誰からも否定されないすべての真実をつきとめることではなく、可能な限り調べて考えて「こうではないか」という暫定的な提言をする、それを実行す

Ⅲ

る、そしてまた調べて考える、というプロセスをとることです。社会学そのものがそうした順応性をもった営為です。順応的な営為としての社会学の目的は、社会のしくみの全面的な「解明」でないと考えたほうがよいでしょう。

社会学の議論は、狭い意味での科学的厳密さより、共同の規範を言葉で表現し、提案・提言することに重きを置きます。別の言い方をすれば、不変の公理ではなく、どうなっているのか、どうすべきなのか、について日常言語に近い言葉で表現し、提案しようとするのが社会学です。つまり、社会学は、みんなが規範の物語を作り出そうといういとなみです。

(宮内泰介「社会学をはじめる 複雑さを生きたる技法」による)

(注) 社会学Ⅱ人間の社会的共同生活の構造や機能について研究する学問
モニタリング＝観察し、記録すること プロセス＝過程

(一) 線部の対義語を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 恣意的な イ 画期的な ウ 合理的な エ 恒久的な

(二) 線①の理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 人びとが大事だと考えることは一つではないので、多くの問題から重要なものだけを抽出する必要があるから。

イ 人びとが守るべき規範についての認識は人によって異なるので、個人の判断基準を平準化する必要があるから。

ウ 人びとが大事だと考えることについての認識は人によって異なるので、みんなが考えていく必要があるから。

エ 人びとが守るべき規範は一つではないので、社会生活で遵守すべき基準を多様に示していく必要があるから。

(三) 線②とはどのような問いか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 答えがあるかどうかわからない、簡単に答えが見つからない問い。
イ 独善的な傾向に陥ることなく、誰もがその考え方に納得できる問い。
ウ 問題の細部を掘り下げて表現している、具体的でわかりやすい問い。
エ 難解な内容を含んだ問題を、簡単に考えられるように工夫した問い。

(四) 線③とあるが、どのようなことに「不確実性」があると筆者は述べているか。文章中の言葉を用いて簡潔に書け。

(五) 線④とあるが、ホリングがこのように主張する理由を、文章中の言葉を用いて八十文字以内で書け。

(六) この文章で筆者が述べている内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 社会学は揺るぎない正解の発見が目的ではなく、正解らしきものを提案し、実行後に結果を検証して、また考えていくという学問である。

イ 社会学は一人の学者だけで研究するものではなく、みんなが協力しながら研究するものであって、我々に協調性が求められる学問である。

ウ 社会学は日常言語に近い言葉で提案をするもので、人びとの共感を得やすく、問題の抜本的解決につながる可能性がある学問である。

エ 社会学は理想的な社会の実現を目指すものではなく、個人にとって重要な問題を中核に据えて考える、我々にとっては身近な学問である。

(七) この文章を「Ⅰ」「Ⅱ」の三つの部分に分けたとき、論の展開の仕方として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 「Ⅰ」で問題の核心を簡潔に述べ、「Ⅱ」でそれを具体的にわかりやすく解説して、「Ⅲ」で問題の解決に向けた糸口を暗示している。

イ 「Ⅰ」で自らの考えの概要を述べ、「Ⅱ」でそれを具体的に例を挙げて補強して、「Ⅲ」で考えの基幹となる部分を再度強調している。

ウ 「Ⅰ」で従来の考え方を述べ、「Ⅱ」で具体的にそれを乗り越えるための仮説を立て、「Ⅲ」でこれから目指すべき姿を展望している。

エ 「Ⅰ」で多角的に様々な考え方を述べ、「Ⅱ」で具体的な例を挙げ自らの立場を明確にした上で、「Ⅲ」で主張の正当性を示している。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

今は昔、木こりの、山守に斧を取られて、わびし、心憂しと思ひて、頬杖突きてをりける。山守見て、「さるべき事を申せ。取らせん。」といひければ、

悪しきだになきはわりなき世間によきを取られてわれいかにせん
と詠みたりければ、山守返しせんと思ひて、「うううう。」とうめきけれど、えせざりけり。さて斧返し取らせてければ、うれしと思ひけりとぞ。

〔宇治拾遺物語〕による

〔注〕山守＝山の管理者 斧＝木を切るための道具 頬杖＝ほおづえ

さるべき事を申せ＝気の利いた歌を詠め 悪しきだに＝悪い物でさえ
わりなき＝困ってしまう えせざりけり＝何もできなかった

(一)

線部を現代仮名遣いに直して書け。

(二)

線①と反対の意味をもつ語を、文章中から抜き出して書け。

線②とあるが、山守はなぜうめいたのか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 大切な道具をなくしてしまい、世間から厳しく非難された木こりの怒りが表現された歌に対し、返答する歌がいくつも思い浮かんだから
イ 大切な道具をなくしたのに、平然と仕事を続けている木こりの無頓着な態度が表現された歌に対し、あきれ言葉が失ってしまったから
ウ 大切な道具を取られたのに、不満を漏らすに働く木こりの不屈の精神力が表現された秀歌に対し、感服して言葉を失ってしまったから
エ 大切な道具を取られてしまい、仕事ができず途方に暮れる木こりのつらさが表現された秀歌に対し、返答する歌を思い浮かべたから

【意見文】

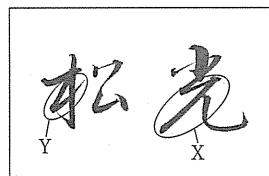
私は、自分の経験を通して「心のバリアフリー」の大切さを実感した。多様な人々が共生する社会の実現を目指して、「心のバリアフリー」を広めていきたいと考える。

私は先月、部活動の練習中に足を痛めて、少しの間、松葉杖を使いながら生活をした。階段の上り下りや扉の開け閉めなど、私が困っている時に多くの人から「手伝いましょうか。」と声をかけていただいた。自分から助けを求められずにいた私は、大変助かった。

一方で、困っている人になかなか声をかけることができないという人もいる。令和元年に国土交通省が行った「心のバリアフリー」に関するアンケート調査の中に、声かけや手伝いをしなかった時の理由として、「困っているかわからなかった」「声をかけても断られるのではないかと思った」という回答があった。以前は私も同じように、声かけをしたり電車で座席を譲ったりすることに對して消極的であった。それは、私の心の中に他者に対する無関心さや自分の好意を断られて傷つきたくないという思いがあったからだと思いついた。しかし、そのような考えが目に見えない様々なバリアにつながっているのではないかと考え、自分を変えていこうと思うようになった。

今後、私は、相手が何に困っているかを想像し共感する力を磨いていこうと考えている。困っている人に対して、適切な距離感で声かけや手伝いをするのが大切だと思うからだ。自分が行動することによって、身近なところから「心のバリアフリー」を広めていきたい。

次の行書で書いた□内の漢字を、楷書で書いたものと比較したとき、○で囲まれた部分X、Yの行書の特徴の組み合わせとして最も適切なものを、後のア～エから一つ選び、その記号を書け。



ア X 点画の連続 Y 点画の省略
イ X 点画の連続 Y 点画の丸み
ウ X 筆順の変化 Y 点画の省略
エ X 筆順の変化 Y 点画の丸み

春香さんは、国語科の授業で意見文を書く学習をしている。次は、春香さんが書いた「構成メモ」と「修正後の構成メモ」、【意見文】である。これらを読み、各問いに答えよ。

【構成メモ】

【意見】

・「心のバリアフリー」を広めたい。

【根拠】

・足を痛めた経験
・声かけをためらう理由

【修正後の構成メモ】

【意見】

・「心のバリアフリー」を広めたい。

【根拠】

・足を痛めた経験
・声かけをためらう理由
【意見】
・自分から「心のバリアフリー」を実践する。

(一)

春香さんは、友達のアドバイスにより【構成メモ】に修正を加え、【修正後の構成メモ】を作った。友達からどのようなアドバイスがあったと考えられるか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 声かけをためらう理由を世代ごとに整理して特徴を示すようにしたらよいと思う。

イ 「心のバリアフリー」が広がるメリットを具体的に示すようにしたらよいと思う。

ウ 自分が今後実践しようとしている具体的な行動を示すようにしたらよいと思う。

エ 積極的に声かけをしている人の実践例を追加して示すようにしたらよいと思う。

(二)

【意見文】からわかる春香さんの述べ方の工夫として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 問いかけるような言葉を用い、興味を喚起させるよう述べている。
イ 資料を効果的に引用し、自らの体験と結びつけながら述べている。
ウ 接続する言葉を効果的に用い、様々な話題を論理的に述べている。
エ 多くの会話表現を用い、文章に臨場感をもたせるよう述べている。

(三)

あなたが友達にアドバイスをするときに大切だと考えることを、次の①、②の条件に従って書け。

条件① 二段落構成で書くこと。第一段落では、大切だと考えることを具体的に書き、第二段落では、その理由を書くこと。

条件② 原稿用紙の使い方に従って、百字以上百五十字以内で書くこと。